

# 2018年度(平成30年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(6)番 福山市立手城小学校

## 1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	やりぬく力	思いやり
めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童の姿)	自分なりの発想を生かして課題を設定し、見直しをもって解決する。	伝え合いを通して、自分や友だちの考えをよりよいものにする。	より高い目標を立て、困難があってもくじけず、努力を続けてやり抜く。	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

## 2 授業の現状

- 児童と共に課題を設定する授業スタイルは定着してきた。
- 道徳を中心に、対話を中心とした授業スタイルが定着してきたが、思考を深める効果的な対話活動への転換が今後の課題である。

転換

## 3 めざす授業の姿

自らの学びを自覚することができる授業  
 ～「分かった」「できた」の実感から「もっとやりたい」へ～  
 話型にこだわらないつぶやきや話し合いを大切に授業展開によって、児童の主体的な学びをひき出す

## 4 めざす授業に向けた取組の具体

<h3>4月からの取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳において、毎時間、導入の工夫と深く考えるための発問を練った道徳シートを作成する。</li> <li>課題設定、対話、ふり返りについてきたと捉える児童80%</li> <li>児童にとって、つぶやきとなる場、話し合いとなる場の設定をする。</li> <li>対話活動によって学習が深まったという児童80%以上(評価指標) 記述式学力調査 全国平均以上</li> <li>児童評価「授業で話し合うことや考えることが楽しい」80%以上</li> </ul>	<h3>8月末の状況</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、事前シートを作成</li> <li>課題設定92% 対話活動90% ふり返り93%(教師の見取)</li> <li>導入の工夫や発問の工夫等を行い、資料の精選も進め、より効果的な指導方法を模索してきた。</li> <li>中心発問や補助発問を練るために、道徳事前シートを作成し、対話活動を行った。</li> <li>1年97% 2年85% 3年81% 4年78% 5年84% 6年83%(児童アンケートを実施、1学年以外は達成)</li> </ul>	<h3>9月からの取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の実践「つなげる」意識で授業改善シートを作成し、授業後、シートに改善目標をついてのふり返り(児童の姿)視点をあてる)を書く。</li> <li>1学期より課題設定、対話、ふり返りについてできるようになったととらえられる児童80%以上。</li> <li>主体的な学び1・2・3を意識した授業改善を進める。(導入の工夫、児童に任せる場・つぶやき合う場の設定と対話、ふり返り)</li> <li>対話活動によって学習が深まったという児童80%以上</li> </ul>	<h3>12月末の状況</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>「待つ・任せる」を意識した授業づくりにより、対話の場面で自然につぶやける児童が増えてきた。ふり返りも、価値に関わってより詳しく書けるようになってきた。話し合いの深めるための切り返し発問に課題がある。</li> <li>学年で協働した教材研究の場を3回以上設定。発問や授業展開などについての考えを出し合うことで、深く教材研究ができた。</li> </ul>	<h3>1月からの取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年で協働して教材研究を行い、「児童に任せる対話場面」や「学び合いの場」を設定した授業を行う。</li> <li>児童のつぶやきをつなげられるよう、授業をコーディネートする。(児童に問い返す・別の児童に説明させる等)</li> <li>授業で話し合うことや考えることが楽しいととらえる児童80%以上。</li> </ul>	<h3>2月末の状況</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話を中心とした授業展開を意識したり、児童主体の学びの姿のある授業を互いに参観し合ったりすることで、職員間でも学び合い、効果的な実践を取り入れてきた。その結果、授業で話し合うことや考えることが楽しいととらえる児童91%となり、目標を達成できた。</li> <li>児童同士の対話の中で、つぶやきをつなげたり、対話を深めたりすることは、今後の課題である。</li> </ul>
---	--	---	---	---	--

## 5 取組の結果等

数値は2017年(H29年)調査等の状況

### 全国学力・学習状況調査(%)

	A問題	B問題
国語	76(-1.0)	62(+1.0)
算数	80(-1.0)	50(+3.0)

( )は県平均との差

### 「基礎・基本」定着状況調査(%)

	タイプⅠ	タイプⅡ
国語	69.1(-2.4)	58.0(+5.6)
算数	80.0(+2.9)	56.3(-9.1)
理科	76.4(+6.0)	49.3(-1.6)

### 「基礎・基本」定着状況調査(児童質問紙調査)(%)

内容	国語		算数		理科	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	45.3	38.5	55.1	28.6	58.0	29.9
学校が楽しい	88.7					

### 暴力行為発生率・不登校児童出現率 (%)

暴力行為	0	不登校	0.48
------	---	-----	------

(2)月末現在

## 体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 33/48	全校で朝の会前の「グーパー運動」を行い、体育や外遊びでの「縄跳び運動」に取り組んだ結果、6/12(50%)→9/12(75%)となり、目標である8/12(67%)を超えることができた。	○男子 「上体起こし」「ボール投げ」において、県平均値かつ全国平均値より低い学年がある。	○「ボール投げ」→体づくり運動や陸上運動でボールを投げたり、ボール投げにつながる運動を取り入れた。各クラスに配布するボールの数を増やし、全児童がボールに触れる機会を増やす。 ○「上体起こし」→体育科の学習において、アップとして腹筋や体幹を鍛える運動を行う。手帳小セット運動を行う際、上体起こしにつながる動きのポイントを意識した指導を行い、家庭学習に「上体起こし」を取り入れ、家庭と連携する。 ○「50m走」→休憩時間いつでも測れるように50m走のコースを設定し、一定の記録に到達した児童を掲示する。体育の時間にアップとして進められる遊びや10mダッシュなどを通して、短距離を素早く走る運動を行う。
(女子) 32/48	同上	○女子 「50m走」「ボール投げ」において、県平均値かつ全国平均値より低い学年がある。	同上
目標値	「上体起こし」「50m走」「ボール投げ」で、各項目の8/12以上を平均値かつ全国平均値以上にする。		

### 福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

質問項目	よく	当てはまる
仕事にやりがいを感じている	37.5	62.5
仕事に充実感がある	12.5	87.5

### 児童生徒アンケート(%)

質問項目	当てはまる	少し
授業で考えることが面白い	91	9
自分の考えは、認められている	84	16

(3)月実施